

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年12月7日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 障害者の就労を支える

社会福祉法人理事長「ナミねえ」の挑戦

9日(日)



社会福祉法人「プロップ・ステーション」の理事長、竹中ナミさん(70)は、ICT(情報通信技術)を駆使して障害者の就労を支援してきたパイオニアです。金髪メッシュにジーンズ姿で政・官・財界を走り回り、政治家や官僚も「ナミねえ」と愛称で呼び、一目置く存在です。

重度障害のある娘を持つ母親でもあるナミねえのエネルギッシュな姿を追います。

筆者は大阪エリア報道センターの桜井由紀治記者です。



## 小説にお笑いライブに売れっ子

又吉直樹さんインタビュー

夕刊特集ワイド 10日(月)

毎日新聞で連載小説「人間」を執筆中の又吉直樹さん(38)が、連日紙上でストーリーを展開させつつ、お笑いライブに取り組んでいます。

ライブの台本や演出も手掛ける売れっ子芥川賞作家は、表現の世界で何を目指しているのでしょうか。又吉さんに、たっぷり話を聞きました。

## 衣 ファッション 古い着物を今風に

くらしナビ面 11日(火)

むかし自分で仕立てた着物や、親や知人らから譲り受けた着物。それらを「たんすの肥やし」にしている人も多いのではないのでしょうか。

一見して古めかしいものでも、帯などの小物を変えるだけで「今風」によみがえります。リサイクル着物店「ながもち屋」を展開する「新装大橋」(東京都中央区)の河野節子さんに、コーディネート術を教えてくださいました。



## 晴れ時々OFF 高知・日高村で洞窟探検

くらしナビ面 11日(火)

全国屈指の水質を誇る四国の清流・仁淀川が流れる高知県日高村。人口約5000人のこの地に、江戸時代に発見され、知る人ぞ知る鍾乳洞「猿田洞(さるだどう)」(全長約1.4km)があります。

「土佐のねずみ小僧」と呼ばれ、幕末の志士・坂本龍馬の先祖の日記にも登場する義賊的な忍者・日下茂平が修業したと伝えられています。

一般開放されている猿田洞の探検に記者が挑みました。

頂点に立つのは関学大か早大か

## アメフト甲子園ボウル企画

スポーツ面 11日(火)から全3回



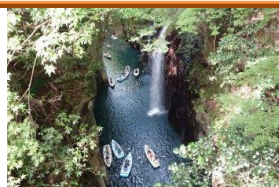
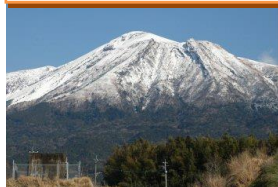
アメリカンフットボールの大学日本一を決める「三菱電機杯 第73回毎日甲子園ボウル」が16日、阪神甲子園球場で行われます。東日本代表・早大と西日本代表・関学大が激突、早大が勝てば初、関学大なら史上最多を更新する29回目の優勝です。

試合に先立ち、スポーツ面では企画「激動の年に」全3回を連載。両校の歩みを紹介するほか、今春に起きた悪質タックル問題を踏まえて、競技の安全面やアメフトの楽しさについて、大会を主管する関西学生連盟の審判部長に聞きます。



## 山は博物館 「高千穂論争」

環境面 12日(水)



古事記などで日本の始まりとされるニニギノミコトが「天孫降臨」したと記されている場所「高千穂」はどこか、霧島連山の高千穂峰=写真左=を主張する鹿児島県と、高千穂町=写真右=を有する宮崎県に間に、地元びいきの争いがありました。

ニニギノミコトのひ孫で初代天皇とされる神武天皇の即位から「紀元二千六百年」の記念となる1940年が近づくとつれ、論争が激化しました。

国と軍は、国民に皇国史観を植え付け、天皇制を中心にした体制維持を図っていました。

## 東京五輪に向けた感染症対策でウイルス輸入計画

医療・福祉面 12日(水)

国立感染症研究所が、危険性の特に高い感染症の検査体制強化に向け、エボラ出血熱など5種類の病気の病原体ウイルスを輸入する計画を公表しました。2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、訪日外国人の増加によって感染症の国内発生の恐れが高まっていることが理由です。

輸入できれば、ウイルスを使って患者の検査に使う物質をあらかじめ準備しておくことができ、検査を精度良く速やかに実施できる利点があるそうです。

計画の詳細や、実際のウイルスの取り扱い方法などを詳しく紹介します。

## ニッポンの食卓・第5部 未来へ

くらしナビ面 13日(木)から

食を取り巻く現状をさまざまな角度から取り上げてきた好評の年間シリーズ「ニッポンの食卓」。最終回の第5部では、日本の食が今後どのように変わっていくとしているのか、を切り取ります。

1食ですべてが済む完全食、高齢化時代に対応する介護食、世界に向けた和食の国際化——。社会に連動するように変容する私たちの食卓の風景を6回にわたって伝えます。

